

# 2015 年度 海外学会等への派遣員の募集

国際交流委員会委員長 吉村千洋

2015 年度の海外学会等への派遣員を募集します。国際交流委員会では本制度を広く活用して頂くため、募集要項の改定を行いましたので、多くの応募を期待しています。以下の募集要項をご覧ください。

昨年度からの主な変更点は以下のとおりです。

- ・派遣後の必要要件である「関連した研究や技術開発に関する論文の投稿」を“推奨”とする。
- ・海外派遣の助成を合計 20 万円に増額する。
- ・若手研究者がネットワークを広げられるような国際学会を国際交流委員会から提示する。
- ・本学会での受賞歴を評価項目に追加する。
- ・公募の時期を 1 ヶ月ほど早める（3 月公募、4 月選考）。
- ・派遣報告については従来からのニュースレターへの投稿掲載に加えて、会誌“応用生態工学”へ「トピックス」（3 ページ程度）として掲載する。

---

## 2015 年度海外学会等への派遣者の募集

国際交流委員会

応用生態工学会・国際交流委員会（委員長：吉村千洋）では、2015 年度の海外学会等への派遣研究員 1 名を募集します。募集要領の概略は以下のとおりです。

\*\*\*\*\*

### 海外学会等への派遣者募集要領

#### 1. 目的

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われてきている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得ながら、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、当該年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を応用生態工学会会員に報告するものである。

#### 2. 選考

##### 1) 資格

- ① 応用生態工学会の正・学生会員であること（募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする）
- ② 学生あるいは 35 歳未満の研究者・技術者

##### 2) 派遣研究員の選考

- ① 学会としての総助成額を 20 万円とし、原則 1 名、場合によっては 2 名を選考する。

- ② 選考にあたっては国際交流委員会において書類審査を行い、候補者を選定した上で国際交流委員会にて決定し、幹事会および理事会に選考の経緯および結果を報告する。

### 3)選考基準

- ① 派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド（研究・調査経験）の整合性
- ② 派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か
- ③ 国際会議に出席して内容を把握できる能力
- ④ 応用生態工学への関心の度合い
- ⑤ 応用生態工学会での活動・参加状況・受賞歴

### 4)派遣後の要件・手続き等

- ① 派遣研究員は、海外渡航の成果を指定の様式を用いて報告するものとする（報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌“応用生態工学”に掲載します。なお、会誌“応用生態工学”では、「トピックス」に掲載します。）。
- ② 派遣終了後は、助成額の使途（使用費目と金額）について、決算報告するものとする。渡航先によっては、助成額の総額を上回る金額を使用した場合も考えられるが、その場合は、それらも含めて決算報告を行う。使用金額が助成額の上限を超えなかった場合には、余剰金を応用生態工学会に返金するものとする。
- ③ 何らかの理由により海外渡航と学会参加を中止する事態が生じた場合には、すみやかに応用生態工学会事務局にその理由などを報告するものとする。
- ④ 派遣研究員は、関連した研究や技術開発について、“応用生態工学”もしくは英文誌“Landscape and Ecological Engineering”に論文を投稿することが推奨される。

## 3. 申請書

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先（住所・TEL・FAX・E-mail）、年齢、性別、専門分野、希望派遣学会等（開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表を行うか否か（その形式）、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送りください）、および派遣希望理由（上記の「3）選考基準」の各項目）を、A4計2枚以内（書式自由、ファイル形式はPDF）にまとめ、E-mailにて学会事務局（[eces-manager@ecesj.com](mailto:eces-manager@ecesj.com)）に申し込みください。

なお、4月以降に所属が変わる場合は、4月以降の連絡先も付記してください。

## 4. 申込期限

2015年3月31日（火曜日）事務局必着

## 5. 派遣決定時期

2015年4月下旬までに決定

## 6. 派遣を推奨する国際学会およびシンポジウム

- 11th International Symposium on Ecohydraulics (ISE) <http://ise2016.org/>
- Annual Meeting of Society for Freshwater Science (SFS) <http://sfsannualmeeting.org/>
- 4th Biennial Symposium of the International Society for River Science (ISRS) <http://www.uwlax.edu/conted/isrs2015/>

その他、以下の国際学会が主催する国際会議

- American Geophysical Union (AGU) <http://sites.agu.org/>
- European Geosciences Union (EGU) <http://www.egu.eu/>
- Society for Freshwater Science (SFS) <https://www.freshwater-science.org/>
- International Society for River Science (ISRS) <http://www.riversociety.org/>
- International Water Association (IWA) <http://www.iwahq.org/1nb/home.html>

なお、上記以外の国際学会やシンポジウムでも応募できます。

---

# 応用生態工学会 海外学会等への研究者・技術者の派遣

## 報告書

- ・ 報告内容は本学会のニュースレターおよび会誌（トピックスとして）に掲載します。
- ・ 本報告書に助成額の使途(使用費目と金額)についての決算報告を添付して下さい(様式自由)。

氏名：	会員番号：
所属：	
連絡先（住所・電話・E-mail）：	
派遣期間：	
派遣先（会議等の開催日、開催地、会議の名称、ホームページ）：	
1. 報告（概要） （次頁以降の報告内容の概要を <u>1200 字以内（テキストのみ）</u> でご記入下さい。この概要はニュースレターに掲載します。）	

## 2. 報告

（会議等の情報も含めた渡航の概要、会議等の主旨・内容、発表、参加者との交流、応用生態工学に関する海外での動向、その他の成果・意見などを 2500～3000 字程度でまとめて下さい。写真や図・表も挿入可能です。この報告内容は会誌にトピックスとして掲載します。よって、本学会の会員にとって有益と思われる情報はできるだけ詳しく記載して下さい。なお、本様式は必要に応じてページ数を変更して構いません。）



3. 本派遣制度に関する感想・コメント

(自由にご記入下さい。本制度をより良くするためのヒントとさせていただきます。)